

【単元名】 人物どうしの関わりを手がかりに、太一の生き方について考えを深め合おう。

【教材名】 「海の命」（光村図書）他、関連図書

【単元目標】

- ・ 太一の生き方を考えるという課題をもって読むことを通して、比喩や反復などの表現の効果に気付く。
- ・ 叙述に基づいて登場人物の関係や出来事を多面的に捉え、自分の考えを根拠をもってまとめたり、友達の意見と比べながら考えを広げたり深めたりする。
- ・ 学習の目的に向かって叙述を繰り返し読み、友達との学び合いを通して新しい見方に気づき、自分の読みを広げたり深めたりしようとする。

【指導事項】 ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。（知(1)ク）

◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。（思C(1)カ）

○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。（思C(1)エ）

【言語活動】 物語を読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動

【評価規準】

<知識・技能>比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（(1)ク）

<思考・判断・表現>

- ・ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ）
- ・ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）

<主体的に学習に取り組む態度>積極的に文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習の見通しをもってそれぞれの人物の生き方に対する考えを話し合おうとしている。

【単元計画】（全9時間）

第1時 教材文を読み、初読の感想を書いて交流し、物語の構成と内容を捉える。

第2時 初読の感想から問いを設定し、単元計画を立てる。

第3・4時 登場人物の関わりが太一の生き方や考え方にどのような影響を与えたのかを読み深める。

第5時 太一にとってのクエの存在が、どのように変化していったのかを考える。

第6時 「海の命」とは何かについて考える。

第7時 太一は生きていく中で何を一番大事にしたのか、自分の考えをスライドにまとめる。

第8時 太一は生きていく中で何を一番大事にしたのか、自分の考えを友達と伝え合い、考えを広げる。（本時8/9）

第9時 交流した考えを基に、自分の読みの変容について振り返る。

# 全体の問いを解決するための児童の読みと教師の支援

<全体の問い> 太一は生きていく中で何を一番大切にしたのか。

- ・登場人物（父、与吉じいさ、母）登場人物の関わりが太一の生き方や考え方にどのような影響を与えたのか
- ・太一にとっての瀬の主の存在は、どのように変化していったのだろうか。
- ・海の命とは何か

## 児童の読みと教師の支援

## 関連する文章中の言葉

### <父の生き方>

父親が瀬の主をとろうとして死んだ理由について、私利や我欲のためと捉えている児童には、「父親はどのような生き方を大切にしているの?」と問い返し、私利や我欲とは関係ないことや、向上心があり、恐れず立ち向かう性格だったことに気付かせる。

P232 L7 「ニメートルもある大物をしとめても、父はじまんすることもなく言うのだった。」

P232 L9 「海のめぐみだからなあ。」

P234 「不漁の日が十日間続いても、父は少しも変わらなかった。」

「P232 L6 「だれにももぐれない瀬に、たった一人でもぐっては」

### <与吉じいさの生き方>

- ・与吉じいさが死んだときに、太一が「海に帰りましたか。」と、自然な気持ちでいることができた理由について捉えることが難しい児童には、「与吉じいさは漁をするときにどのようなことを大切にしていたの?」と問い返し、海にある命を大切にしていたこと、海に生かされているということ、海が父や与吉じいさの生きた場所だったことに気付かせる。

P 234 L12 「もう魚を海に自然に遊ばせてやりたくなくなってる。」

P235 L13 「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」

### <母の生き方>

- ・「母の悲しみさえも背負おう」とは、どのようなことなのかを具体的に捉えられていない児童には、「背負うことで、太一はどのような気持ちで父が死んだ辺りの瀬に船を進めたの?」と問い返し、自分が死んではいけないという決意をしたこと、さらに瀬の主をうちに行こうと決意した太一の気持ちに気付かせるようにする。

p238 L2 「おまえが、おとうの死んだ瀬にもぐると、いつ言い出すかと思うと、私はおそろしくて夜もねむれないよ。おまえの心の中が見えるようで。」

P238 L5 「母の悲しみさえも背負おうとしていたのである。」

P238 L7 「父が死んだ辺りの瀬に船を進めた。」

### <太一にとって瀬の主の存在は、どのように変化していったのか>

- ・父の仇を討つという考えに固執してしまう児童には、本文から父を破った瀬の主ではない可能性があることに気づかせ、太一が「本当の一人前の漁師になる」ことにこだわっていたことを捉えさせる。

P234 L4 「光る緑色の目をしたクエがいたという。」

P240 L10 「青い宝石の目を見た。」

P241 L12 「村一番のもぐり漁師だった父を破ったせの主なのかもしれない」

P242 L10 「この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。」

- ・瀬の主をうたなかった理由について捉えることが難しい児童には、父・与吉じいさ・母の生き方を振り返るように促し、それぞれの登場人物との関わりから「瀬の主を殺さない」という選択に至ったことに気づかせるようにする。

これまでの学習を想起させる。

- ・海の命とは何かについて考えが深まらない児童には、登場人物の生き方を振り返らせることで、魚などの生き物の命だけでなく、海で生きる人々の思いや願いについても目を向けられるようにする。

これまでの学習を想起させる。

【本時目標】太一は生きていく中で何を一番大切にしたいのか、友達と互いの考えの違いやよさを認め合うことで、自分の考えを広げたり深めたりする。

## 学習活動

### ◆導入◆【課題の設定】

- 本時のめあてを確認する。  
「太一は生きていく中で何を一番大切にしたいのか、自分の考えを伝え合い、考えを広げたり深めたりしよう。」
- スプレッドシートで前時に立てた自分のめあてや友達のめあてを確認する。

### ◆展開1◆【情報の収集】「整理・分析」

- 学びの手引きにそって活動に取り組む。
  - ・登場人物の生き方について思考ツールやスライドなどにまとめたものを基に、友達と伝え合う。
  - ・友達の意見との共通点や相違点をワークシートに記入する。

#### <予想される考え>

- ・太一は、“父の生き方を受け継ぎたい”と思っています。理由は、「とうとう、父の海にやってきたのだ」と書いてあるところから、父の背中を追っているのだと思ったからです。
- ・ぼくは、太一は母の思いも背負っているから、クエをとるのをやめたと思う。だから、〇〇さんの考えに加えて、父ができなかった“自分の命も大切にすること”ということも大切にしていると思う。
- ・太一は、“命をつないでいくこと”が一番大切にしていると思います。理由は、「大魚はこの海の命だと思えた」のところから、無駄に命をとらず、生かしていくことを大切にしたいことや、自分も無事に帰り、大切な家族をもったからです。
- ・ぼくは、“自然を大切にしたい、感謝して生きる”ことを大切にしていると思うんだけど、自然を大切にすることは、〇〇さんが言う、“命を繋いでいく”と同じことかもしれないね。他の命シリーズの共通点ともいえるから、作者が伝えたいかった思いなのかもしれないね。
- ・さっきまでは、“自分の信念を貫くことの大切さ”だと思っていたけど、友達の意見聞いて、“全ての命を大切にしながら”という考えもスライドに付け足したよ。

### ◆終末◆【まとめ・表現】

1. スプレッドシートを用いて、振り返りを行う。
2. 次回の活動の確認をする。

## 指導の手立て 【★評価】

### 【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

- ・深い学びになるように、根拠を基に説明することや、友達の意見を手がかりに考えをよりよくすることなど、視点を明確にして、個々のめあてを前時までに立てておく。
- ・友達の意見との共通点や違いについて着目できるように、友達の考えをメモできるような、個の学びに合ったワークシートを用意しておく。

### 【「協働的な学び」を目指すための手立て】

- ・自分の考えを広げたり深めたりできるように、事前にスライドの提出箱を共有し、協働したい相手を選んでおくようにする。
- ・根拠を基に自分の考えを説明できるように、伝え合いの視点を提示する。
- ・協働する相手が偏りがちな児童には、自分の考えを深めたり広げたりできるように、児童の考えを把握した上で、気付かせたい視点に応じて、「〇〇さんの考えを聞いてみたら。」と声をかける。
- ・自分の考えを広げたり深めたりできるように、「〇〇という考えがあったけど、△△という考えもあると思う。」「どうして□□と思ったの。」など、本時までに児童と考えた深め合いの姿を確認する。

- ・自分の言葉で説明することが難しい児童には、『太一は、「〇〇を大切にしている」と思います。1つ目の根拠は、～だからです。2つ目の根拠は、・・・』など、話型を示す。
- ・友だちの考えと自分の考えの共通点や違いに気付くことが難しい児童にどのような気付きがあるか一緒に考え、考えが広がったり深まったりすることのよさを感じられるようにする。
- ・多様な読みが生まれた児童がいたときには、全体に共有し、児童が自分の考えを見直したり深めたりできるようにする。
- ・友だちの意見を聞いて考えが広がったり深まったりした児童には、自分の考えに加え、追加された考えも説明するように声かけを行う。

### 【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

- ・自分の考えの広がりや深まりを自覚できるように、振り返りの観点を明確に示す。
- ・考えの変容を言語化できるように、「どのような気付きがあったか」、「どのように考えが変わったか」など問い返しを行う。

★自分と友達の考えとの共通点や違いに着目し、新しい見方に気付き、自分の考えを広げたり深めたりしている。【活動の様子、振り返り】（思C(1)カ）